

# 令和7年 第4回全員協議会会議録

令和7年3月6日 議員控室

## ○事 件

町長報告事項

- (1) 「一般会計財政試算：令和7年3月版」について（財務課）
- (2) 八雲総合病院収支見通しについて（総合病院）
- (3) 第2期八雲町総合計画実施計画について（政策推進課）
- (4) 教育長の退任と後任の任命について（総務課）

## ○出席議員（13名）

議長	千葉	隆	君	副議長	黒島	竹満	君
	赤井	睦美	君		佐藤	智子	君
	横田	喜世志	君		大久保	建一	君
	関口	正博	君		宮本	雅晴	君
	倉地	清子	君		三澤	公雄	君
	牧野	仁	君		斎藤	實	君
	安藤	辰行	君				

## ○欠席議員（1名）

能登谷 正人 君

## ○出席説明員（13名）

町長	岩村	克詔	君	副町長	成田	耕治	君
総務課長	竹内	友身	君	財務課長	川崎	芳則	君
財務課長補佐	南川	達哉	君	総合病院事務長	竹内	伸大	君
総合病院庶務課長	長谷川	信義	君	総合病院医事課長	加藤	貴久	君
総合病院医療連携課長	佐々木	裕一	君	政策推進課長	川口	拓也	君
政策推進課参事	戸田	淳	君	政策推進課長補佐	宮下	洋平	君
企画係長	右門	真治	君				

## ○出席事務局職員

事務局長	野口	義人	君	事務局次長	成田	真介	君
庶務係長	千代	貴大	君				

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） 皆さん、おはようございます。

若干早いようですが、皆さんお揃いですので、本会議前の令和7年第4回全員協議会を開催いたします。

◎ 町長報告事項

○議長（千葉 隆君） それでは早速、町長報告として（1）一般会計財務会計、財政試算例は他に、令和7年3月版についてご報告をお願いいたします。

○財務課長（川崎芳則君） 議長、財務課長。

○議長（千葉 隆君） 財務課長。

○財務課長（川崎芳則君） おはようございます。

それでは、昨年10月30日の全員協議会におきまして一般会計財政試算を推進いたしました。改めて令和6年度決算見込みの他、総合計画、実施計画、そして令和7年度予算を反映した一般会計財政試算、令和7年3月版を策定いたしましたので、その詳細について担当補佐からご説明をさせていただきます。

○財務課長補佐（長谷川聡司君） おはようございます。それでは、私の方から説明させていただきます。

一般会計財政試算、まず1ページ目をご覧くださいと思います。

（1）令和7年度歳入の約30%を占める普通交付税についてですが、今後の地方財政計画をふまえるとともに、算定に用いられる単位費用などを考慮し、減少基調で固く試算している状況であります。

（2）各年度の捉え方ですが、令和6年度は決算見込み、令和7年度は当初予算額、令和6年度からの繰越明許費及び補正予定事業分、令和8年度以降は継続事業や第2期総合計画実施計画及び令和7年度概算要求における想定事業から試算しております。

（3）ふるさと応援寄附金奨励事業ですが、令和7年度予算につきましては、事業費は7億2千円で、ふるさと応援寄附金積立金14億円とあわせて21億2千円であります。令和8年度以降においても、ふるさと応援寄附金奨励事業経費を含めた形で試算をしたものであります。企業版ふるさと応援寄附金は情勢を捉えづらく、令和8年度以降への試算は反映しておりません。

（4）新庁舎等建設事業ですが、令和5年度から令和9年度において、記載の事業費にて試算してございます。財源といたしまして、合併特例債、緊急防災、減災事業債及び過疎債を見込み試算したところでございます。

令和7年度の補正時期は4月から6月中を予定しており、事業費の年度のはりつけも改めて精査することとなりますので、今回お示しした事業費から変更となりますのでよろしくお願いいたします。

次に2、歳入でございます。

丸付き数字は資料2ページの財政試算表の左側枠外の数字と連動しておりますので、2ページの表と一緒にご覧願います。

① 町税について、令和6年度決算見込みは、22億4,600万円と見込んだところであります。

令和7年度については、過去の実績及び地域経済の動向を勘案し20億1,200万円と見込み、令和8年度以降の見込額ですが町民税、個人及び法人は前年度対比1%減、また、固定資産税の評価替えを令和9年度に実施することから2%減とし、減少基調で試算しております。

②地方交付税についてですが、普通交付税の令和7年度については、令和6年度算定結果を基に公債費、個別算定経費を積算しておりますが、令和8年度以降は今後の国の地方財政計画や国調人口の推移を踏まえ、前年度対比2%減とし減額基調で見込んだところでございます。

特別交付税については、交付基礎額相当のみを試算しておりまして、令和8年度以降は前年度対比2%減の試算でございます。

次に③の繰入金でございます。

令和6年度分は、決算額に応じ調整の上決定しますが、本試算においては予算額から執行残等を考慮し、13億円圧縮の24億5,800万円としており、うち財政調整基金から2億5千万円の繰入を見込んでおります。また、令和7年度については、31億4,400万円を繰り入れる形で試算をしており、令和8年度以降は、収支不足額が計上されるよう0円としております。

次に④⑤の町債については、普通建設事業に対応したほか、普通交付税の振替財源である臨時財政対策債については令和7年度は制度創設以来、初めて発行額がゼロとなり、令和8年度以降も発行額はゼロとして試算しております。

以上のことから、⑥の各年度歳入合計については、表記載のとおり試算したところであります。

次に3、歳出でございます。

丸付き数字はありませんが、扶助費については、令和7年度においては児童手当の給付対象範囲の拡大や障がい者自立支援給付費などにより増となっており、その他の扶助費においても年々増加傾向にあることから、令和8年度以降は前年度対比2%増での試算としております。

⑧の普通建設事業は、第2期総合計画実施計画、継続事業等により試算をしているところであります。

令和7年度で補正対応として加えた事業は、新庁舎等建設事業12億8,912万円などを見込んだところであります。令和8年度以降も、総合計画実施計画及び概算要求、継続事業等に基づき試算しておりますが、公共施設の老朽化が進んでいるほか、新庁舎等整備の継続やサーモン種苗生産施設整備などの大型事業を控え、事業費が大幅に増加している状況であります。

⑨の公債費については、町債の発行額に合わせて、令和7年度以降の借入予定分を含めて償還額を算定しております。また、借入に当たっては有利な起債である過疎債、辺地債の選択を第一に考え、追求していくものであります。

⑩の繰出金については、令和8年度以降は、国保、後期会計は、前年度対比0.5%増、介護保険会計では、前年度対比1%増で試算したものでございます。

また、企業会計への繰出金は、財政試算表では、補助費等とその他に区分されています。特に総合病院については⑬に抜粋しており、総合病院の収支見通しと整合性を取った試算としております。

次に⑫の収支欄ですが、繰入金でもご説明しましたが、令和6年度は決算時改めて精査し決定しますが、現段階の試算としては、財政調整基金から2億5千万円の繰入を行った上で、歳入歳出差し引き3億4,500万円であります。

令和8年度以降は、歳入歳出差し引きがマイナスの試算であることから、各年度基金からの繰入により対応しなければ財政運営が行えない状況であると、表しているものでございます。

これに伴いまして、⑮取崩型基金残高は、令和6年度末137億7千万円の見込みであります。

試算においては、令和11年度末では15億7,800万円の基金残高であることから、令和6年度も残りわずかですが、令和6年度から収支不足の圧縮に努めていきたいと考えています。

最後に、下段の経常収支比率、実質公債費比率の推計であります。基本的にこれらの数値は普通交付税と地方債の借入額及び償還額の増減によって大きく左右される指標であります。

経常収支比率については推計上、歳入経常一般財源を固く見ていることもあり、また経常的な支出が増加傾向にあることから、令和7年度以降は80%後半で推移する試算となっております。

また、実質公債費比率については、8%台で推移するものと試算し、過疎債や辺地債という交付税措置のある有利な起債を選択することで、実質的にこの数値は大きく上昇しないであろうと試算しているところであります。

一般会計の財政試算は、国の動向により大きく左右されることから、想定される内容を考慮し、歳入は硬く試算しており、これ以上の悪化は無いと考えていますが、病院事業の経営状況によっては、大きく変更となることをご理解願います。

以上で、一般会計の財政試算についての説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） 今一般会計財政試算についてご説明をいただきましたが、皆さんの方から何か質疑がございましたら、受けて参りたいと思いますが、ございますか。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） 予算審議があるので、これで終了したいと思います。

それでは（2）の八雲総合病院収支見通しについて、総合病院の方からご報告をお願いいたします。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 議長、総合病院庶務課長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） それでは、総合病院収支見通しについて説明いたします。

まずは令和6年度決算見込みについて説明いたします。

本決算見込みにつきましては、1月末現在の状況から、今後の見通しを推定したものでございます。資料の1ページをご覧ください。表上段の患者数入院患者数につきましては、前年度決算数字を大きく下回るものと見込んでおり、外来患者数は前回報告いたしました、9月末現在の推定地域では、一定程度落ち込むものと想定しておりましたが、1月末現在では前年度と同程度まで回復するものと見込んでおります。入院患者数が大きく減少した要因につきましては、昨年2月から3月にかけて内科常勤医師3名が退職したことに加え、7月末で循環器内科常勤医師が退職となったことが大きく影響したものと考えられます。

また、手術件数の減少や分娩件数の減少が顕著となっており、加えて精神科におきましては、国の方針もあり、社会全体の流れの中で施設入所や在宅復帰が促進され、一時的な増加は考えられますが、今後は病床利用率は6割程度で推移するものと見込んでおります。

一方で外来患者数につきましては、入院同様に、常勤医師の退職による影響もございましたが、各方面から出張医師の診療応援をいただき、診療体制を維持してきたことにより、結果として前年度と同程度となる見通しであります。

収益に関する特徴的な事項といたしましては、入院患者数の減少による影響が非常に大きく、③の入院収益および④の外来収益を合わせた診療収益、⑤の小計は、前年度比9,972万4千円の減となる見通しであります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、令和6年度以降は関連補助金が皆無となったことから、⑦事業外収益は前年度と比較し、約1億9千万円の減額となる見込みでございます。

⑧特別利益は、医療裁判1審判決における強制執行停止申し立てに係る供託金の戻入1億4千万円を計上しており、裁判終了後、一定の手続きを経て収入されることとなります。

次に費用の分に関しましては、特徴的な事項として、⑨給与費は、人事院勧告による若年層を中心とした通学改定もあり、前年度と比較し大幅に増額となる見込みであります。

⑩経費は、物価高騰の影響から各種価格上昇が見込まれ、⑫減価償却費の増加増は昨年度更新した電子カルテシステムの整備が主な要因であります。⑬特別損失では、先ほど収益⑧特別利益で説明しました裁判供託金1億4千万円の支出により、前年度比約1億2,300万円の増となっております。

Aの欄、収益統計からBの欄、費用総計を差し引いたCの欄、差引収支は8億4,088万7千円の純損失を見込んでおります。表下から2行目Gの欄、内部留保資金は13億8,738万円を見込んでおります。

続きまして、総合病院収支見通しであります。資料2ページをご覧ください。

令和11年度までの収支見通しとなります。特徴的な事項に絞って説明いたします。表の下に記載の丸付き数字⑭4特別利益の他会計繰入金につきましては、令和2年度までは経営基盤強化対策として、基準外の繰入金としての決算実績がございましたが、計上しない見通しとしております。

⑮純利益は、令和7年度以降、現体制のままで運営することを前提とした資産である、7億円から8億円台の純損失で推移する見通しであります。続いて、資本的収支⑯建設改良費であります。定期的な医療機器の更新、病院経営維持に必要とされる建設改良費の計上であります。

⑰一般会計繰入金の見通しですが、令和7年度以降、12億円から13億円台を毎年度計上する見通しとなっております。繰入金の性質のうち⑱基準内相当分は、地方公営企業法の規定により、特定の要件を満たす経費については、一般会計において経費負担することとされており、原則として地方交付税を通じて、一部財源措置が行われているものであります。

なお、基準外につきましては、医療従事者の育成確保を目的とした奨学資金貸付金に要する経費および公営企業債のうち、過疎債が適用となる元利償還金につきましては、その一部を基準外として、一般会計より繰り入れることとしております。

以上を踏まえた上での⑲内部留保資金につきましては、これまでコロナ関連補助金の影響もあり、令和5年度時点では19億2,700万円の現金保有状況とはなっておりますが、先ほど説明いたしました令和6年度の決算見込みを勘案した試算からしますと、令和9年度では、3億6,300万円の資金不足となる見込みであります。

今回の試算につきましては、非常に厳しい結果が見込まれる令和6年度決算見込みを大きく反映したもので、保険診療体制のまま運営されることを前提とした収支見通しとなっております。この見通しのままで推移しますと、3年後には確実に資金力団体に陥るものであり、この事実につきましては、厳粛に受け止めているところであります。

この状況に対しましては、何らかの早急な対策、経営方針が求められるところではありますが、現段階で何か起爆剤となるような具体的な対策、方策が存在していないのが現状であります。

まずは、これまでも同様となりますが、地域医療を堅持する考えのもと、医師を初めとする医療従事者の確保、これまで取り組んできた増収策等の維持、更なる増収策の追求と週間対策費を削減、業務の効率化など徹底した取り組みにより、着実に経営改善に結び付けられるよう努力してまいります。

以上、大変雑ぱくではございますが、総合病院の収支見通しの説明といたします。よろしくお願いたします。

○議長（千葉 隆君） それでは、総合病院の推進方針についてご報告がございましたけれども、皆さんの方から何か質問はございませんか。

○議員（牧野 仁君） 議長、牧野。

○議長（千葉 隆君） 牧野議員。

○議員（牧野 仁君） 確認させていただきたいんですけど、今年の資料と比べてんですけども、収支見通しの毎年収支見通しの考え方の資料が今回ないような気がするんですけども、去年はいただいていたんですけども今年度は考え方の示しが見えないんですけども、その辺はこれから出るんでしょうか。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 議長、総合病院総務庶務課長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院総務庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 文面でそのどういった考え方ですといった資料かと思いますが、内容につきましては、これまでの決算の内容と、これからの決算見込みの内容を示したものでございますので、資料としてはちょっと意味がないと言ったら失礼ですけども、今ご説明した通りでございますので、その資料につきましては省略をさせていただきます。申し訳ございません。

○議員（牧野 仁君） 議長、牧野。

○議長（千葉 隆君） 牧野議員。

○議員（牧野 仁君） 委員長、今年の資料を見ますと、今人件費の適正化の部分を書いてあるんですけど、この部分は今年度の決算人事勧告で理由はわかるんですけども、当時の資料では、人件費の圧縮を務めると書いてあるんですけども、その辺の努力はされたんでしょうか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 人件費の圧縮の関係につきましては、途中で人件費を変えるですとか、引き下げるっていうことはなかなか制度上難しいものですから、各部署で例えば、時間が空いてるときに貯金に行ったりですとか、貯金といまして一定程度手持ち時間というのがどうしてもいろんな部署で発生しています。

その中で、例えば1時間でも病棟の方に支援上がることで追加の職員を採用しなくてもいいのかわりですとか、そういうところの人員としては看護部の方で相当配慮して努力をしているところがございます。

これまでも例えば看護職員始め、診療報酬とは人員の配置が前提となっております、その人員の配置がなければなかなか高い診療報酬をとっていけないんですけども、一方で本当に無駄と言

ますと、ちょっと語弊があるかもしれませんが、少し非効率になってるところないかというところは普段見直しを行っています。

繰り返しますけども、そういう意味においては例えば午前中の外来だけその職員が本来決まった勤務なので、ここはある程度余裕ができる勤務というふうになりますと、他の診療科に行って援助したりですとか、場合によっては病棟の方に上がって援助したりですとか、そういった人振りをうまくする中で若い職員は当然採用して欲しいんですけども、採用増の一定程度過剰にならないような工夫というのはさせていただいているところでございます。以上です。

○議員（牧野 仁君） 議長、牧野。

○議長（千葉 隆君） 牧野議員。

○議員（牧野 仁君） すいません、ありがとうございます。

私は今日の見通しの中で一番最後の⑭人件費比率ですね。何度か私も質問させていただきましたけど今回は94.2%、来年は97%と年々増える傾向はあると、比率的に。

これに対しては事務長として、どのような考え比率。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 事務長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 民間病院で一般的に言われてる人件費比率をすれば、概ね60%下回る、これを目標にしている病院が多いというふうに思っております。これまでも、いろいろお話を聞いていたのですが、なかなか独立採算できる診療科が当院としては非常に少ない中で、地域医療の確保を住民福祉の向上の維持のために、不採算の診療科も維持しなければならないというふうに考えてございます。

そのことから、言い訳じみた答弁となりますけども、単にその人件費率一つを取り上げて、我々も深刻には当然受けとめてございますけども、それら財産の診療科を維持するために必要な人件費ということを考えれば、やむを得ざるを得ないのかなというふうには、現実としては捉えています。

もう一つは、昨今の診療報酬の改定の中で、物価上昇に伴う診療報酬の手当がほとんどされていないというふうに我々は考えています。

役場、総合病院だけが考えてることではなくて全道の事務長関係の会議なんかでも、いろいろその各機関の事務部長あるいはそういった当社の方とお話をしますけれども、電気代がこれだけ高騰して、燃料代も上がっている。そして、さらに政府を中心として国民全体の賃上げに向けていろいろな働きかけをしている中で、診療報酬がそれに追いついてないということが私どもとしては一番の悩みでございます。

それともう一つは、診療報酬の中身を見ていきますと、明らかに二極化をしております。高度な医療機関、たくさん職員をあてて、より高度な医療を提供するところがたくさんある。診療報酬つきますけども、地方の病院でなかなか努力しても、人員配置に含めてソフトパワー、ハードパワーが追いついていないところについては、ほとんどもう上がってございません。

そういうことを考えると、診療報酬の本体の中には当然人件費の他に、いろいろな経費、先ほど代表的に申し上げた通り、電気代とかそういったものも含まれて当然なんですけど、そういうところがほとんど評価をされていないというふうに考えておりますので、この辺につきましては、年々町長と共に国の方にも要望活動に行ってきたでございます。

様々な国会議員ですとか関係の省庁の方々にも訴えてございますので、引き続きこういった要望活動も強めていきたいなと思っております。

ただ、牧野議員ご指摘の通り、人件費をどういうふうに工夫していくかというところは、これはもう永遠の課題でございます診療報酬がどうだからこうだからってことに甘えることなく、この辺については必要な方策を講じてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願います。

○議長（千葉 隆君） 他に。

○議員（赤井睦美君） 議長、赤井。

○議長（千葉 隆君） 赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 人件費でいくと常勤医さんが少なく、出張医が多いからかなって勝手に想像してますけども、先ほど6年度の決算の説明の中で内科医さんが3人退職されちゃってっていう説明だったんだけど、それは変な話、いろんな事情があると思いますけれども、八雲町そのものが住みにくいのか環境が悪いのか、何かいっぺんに辞められるってことは病院だけの環境じゃないんじゃないかと思うんですけど、その辺もし少しでも理由がわかれば教えていただきたいです。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 令和6年度の当初退職をされた3名の内科医師につき、もしくは決して八雲町が住みづらいということが一番の原因ということは聞いてございません。

それぞれ3名の先生方とも私いろいろお話ししましたが、元々2年ですとか3年ですとか、自分の中で期限を区切って、北海道内のいろんなその地域医療に貢献したいという声が聞かれました。

そのうちの1名につきましては、海外の方に語学留学、医療語学の留学のためにどうしてもやむなく退職したいということが聞かれてございますので、決して八雲町が魅力のない町だから、もうここに住みたくないんだということではないというふうに考えてございます。

あと駄作になるかもしれませんが、いろいろ今年度も（聞き取り不能）医師といろいろリクルートのお話をしてきましたけれども、やはり東京ですとか関西ですとか、そちらの方からいらっしゃる需要はあるんですけども、空港から遠いというふうには言われてございます。

競合した、とある医師につきましては、結局は千歳空港の周辺の自治体の所在する病院の方に決めたということで、業者にもいろいろ問い合わせましたが、やはり関東関西の方に帰省するにあたって、空港へのアクセスっていうのがすごく重要な、これはこの一例ですけどもそういった地理的条件の中でもなかなか難しいところはあるのかなというふうに考えてございます。

町長の方からも常々お話をされているというふうに思いますが、当院としてもぜひ一刻も早く北海道新幹線の札幌延伸に結びついていただくことによって、札幌、八雲間、あるいは函館、八雲間のアクセスがもっと近くなって、場合によっては日帰りで常勤で勤務できるような環境もできますので、そういうところは一点付け加えさせていただきたいというふうに思います。よろしく願います。

○議長（千葉 隆君） 他に。

○議員（関口正博君） 議長、関口。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○議員（関口正博君） すいません、あまり時間もないでしょうからあれですけど。

策がないっていうのはやっぱり非常に気になると思って、町長当然赤字の分だけ一般会計から一般の財源からお金を入れれば病院を維持できるんですよね。

でもそんなわけにはいかないということです。もうこんな切羽詰まった状況の中で策がないっていうこと自体が非常に問題だと思うんですけど、これから予算審議迎えて、予算はある程度目標ですんで、それにのっとなって我々も見ていかなきゃならないというところはあるにしても、当然繰入額っていうのは今年度、来年度ですから、これ非常に増えてくる可能性もあるということは、そういうことも視野に入れた議論も当然していかなきゃならないということなので町長この策がないっていうことに対して、町長どのように思って、何も策ないんですか。

お金があれば当然病院に入れていけば病院を維持できるっていうことにはなるかと思うんですが、当然それが許されないのであれば、病院の維持そのものを考えていかなきゃならないということなんでしょうか。どうなんでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 策がないっていうか、今我々としてはさっき事務長から話あった通り、診療報酬が電気代とか人件費の高騰、働き方改革等で上がってきてるってことを考えると、国並びに北海道の補助、医療の変更だとかが大事だと思って、一生懸命国の方にも動いています。

いずれ私の考えるところで、先ほど事務長話した通り、赤字の科目をやめちゃうのか、それともどうするのかっていう結論をこの1、2年で出さなければ。この収支を見ると毎年6億、7億のお金が入っていくと基準内の11億、12億の中にも一般財源から入っていくのがありますので、私の感覚としては、8億程度を今の状況では一般会計から持っていかなければ病院を維持できないというのは認識していますので、早急に国並びに北海道の方に動いているということと、長万部町、今金、瀬棚など4町は総合病院は必要だということは昨日話してはいますが、この4町の中でお金の問題もなかなか長万部町、今金町、瀬棚町にお金をくれとは言えませんので、国が国会で動こうという話し合いをしていますので、国の制度等々やっぱり変えていくっていうことも必要でありますので、その辺もやりながら縮小を考えていくということで想定しますのでよろしく願いいたします。

○議員（三澤公雄君） 議長、三澤。

○議長（千葉 隆君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 先ほどの牧野さんとの質疑の中で注目したんですけど、今町長触れました診療科ごとの収支ですね。

僕たち議会議員は患者数の数字は持っているんです。公表してもらってるんで。だけど収支のことはなかなか資料請求してもらってないんで、今僕たちも真剣に総合病院のあり方ということを考える上で、どうしてもその数字を見て考えていきたいと思っておりますので、これを機会にぜひ議会にもその資料を出してもらえないかなとお願いしたいんですが。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 議長、総合病院事務長。

○議長（千葉 隆君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） まず診療科別の1円単位までは難しいかもしれません。中には経費按分しなきゃいけない部分も出てきますので、持ち帰って院長と相談をさせていただきます。

一つ心配してるのが、例えば誠意を持って出した数字が誤った解釈をされてしまう可能性もあるという心配をしております。ある診療科では、こんなに赤字があるのかですとか、数字だけを捉えたときに、適正な評価に果たして繋がるのかなというところは心配をしております。

経済合理性を考えますと、年間にこれだけ赤字になってるんだから維持するのはもう妥当ではないのかという判断を考える中にあると思います。ただ先ほど申し上げた通り、小児科ですとか、産婦人科、これは出生の数がどんどん減少しておりますので、当然赤字でございます。他の診療科につきましても、以前内部で原価計算したときには黒字の診療科というのはほぼございません。

その一つの要因としては、医師を休ませなきゃならない。週末に医師の休息を確実に確保するために、外部から出張の先生を呼んでいる。ご案内の通り 365 日 24 時間臨時救急の担当してございます。平日だけ先生が勤務して、土日はいいよということにはなかなかならないですから、同じ日に全科出張医を週末呼んでございます。

呼んだ分については、医師住宅から救急で必要なときに呼ばれるような体制。これはほとんど収益に結び付かないというふうにして考えていただければ結構です。当直の先生は別に確保してまっすけども、当直の先生が全ての診療科をカバーできるわけではございません。その中で骨折が来たときには、整形の先生が呼ばれて、診断をするといったことになってます。

逆に言うと、週末の中で1件も呼ばれなければ、ただ気を払って終わってしまう。これは八雲総合病院だけがやってることではなくて、全国どこでも責任の重い病院はこういう負担を自ずと被っているということになりますので、その分の出張医も含めた診療科の収支ということに、最終的にははじき出されますので、その点考慮をいただきたいというふうに思います。

結論になりますけども、院長と一度相談をさせてください。出したことによって、例えば大学医局の方をからも、そういうのを出すのどうなんだろうと言われる可能性もございますし、その点いろいろ検討させていただいて、なるべく意に沿うように努力をしたいと考えてございます。よろしくお願いいたします。

○議員（三澤公雄君） 議長、三澤。

○議長（千葉 隆君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 心配はごもっともな点もあると思います。ただ、僕たち議会議員のまちづくりにとって、総合病院が必要不可欠というその軸足は変わってないと思いますんでね。じゃあどういった病院作りをするっていうかは、これまで議員の代が変わろうともいろんな特別委員会作ってやってました。今も勉強会しました。

要するに患者の数だけで、この診療科をどうするっていう議論する方が僕は危ないと思ってるんですよ。なので、そういった収支と、それについてくる説明も含めてあった方が、より僕たちも病院側に寄り添えるようになると思いますし、ぜひその心配を払拭されるように説得していただきたいと思います。僕たちも本当に真剣に考える上で、数字と説明を欲しいです。お願いします。

○議長（千葉 隆君） 一応今の案件ですけれども、月例監査において収支の部分をもとに出てるわけですから、私ども議員はその閲覧をすることができます。

ですから、私達手計算でそういった部分を出すことができますので、逆に言えば、そういった手計算する部分で間違っような状況にならないためにも、正確な数字っていうものを議会の方に提出いただくよう、院長の方にもご理解願いたいということで、議会の方からの切なるお願いということで、お願いいたしますのでよろしくお願いいたします。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 承知いたしました。

○議長（千葉 隆君） 他に。

○議員（関口正博君） 議長、関口。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○議員（関口正博君） すいません。僕は今までの病院事業のやり取り、議会も当然責任ありますけれども、幼稚なと言いますけど決定的に足りないのは危機感だと思うんですよ。

相当危機的な状況にある中で、もちろんいろんな病院が苦しんでるのは間違いないんですよ。これは八雲総合病院ばかりの問題じゃない。ただ最後は国に頼らなきゃならないんだっていう町長の発言も含めて、病院をどうやって維持していくのかどうかっていうことの決定的に危機感が足りないと思います。

それを感じて、我々も今勉強会というものを始めてます。一生懸命勉強して何とか議会からもできることって少ないんだけど、何か維持していくためのヒントというものを考えるべく、いろんな勉強会を今始めてますんで、どうか何とか病院を維持していくんだって思いの元いろいろ策を練っていただきたい。

国に頼ったって制度変わっていくのなんて、もっと先になっていくんですね。これ見るともう待ったなしですよ。内部資金、内部留保が2、3年後にはなくなるんですから、町がお金あるうちは当然入れてりゃいいんでしょうけれども、もっとしっかりと危機感を持って対応していただきたいなと思いますし、議会もいきたいと思いますんでよろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） 関口議員の部分については、予算委員会で深掘りしてください。

他に総合病院の部分について、何かございませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） 10時から会議が予定されておりますので、次の3報告事項について移りますので、よろしく願いいたします。

病院の収支見通しについてはありがとうございました。

（3）第2期八雲総合計画実施計画についてご報告を政策推進課の方よりお願いをいたします。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） それでは総合の実施結果について報告させていただきます。

皆様ご承知の通りこの総合計画ですが、平成30年度から令和9年度までの10年間の計画期間でございますが、本日ご報告する実施計画につきましては、基本計画に基づいた具体的な事務事業を明示する3年間の計画でございまして、毎年度ローリング方式で進捗状況の評価検証を行いながら進行管理を行っていくこととしてございまして、今回は令和7年度から令和9年度までの3年間の実施計画を別添の通り作成させていただきましたので、その概略につきまして企画係長のほうから決めさせていただきます。

○企画係長（右門真治君） 議長、企画係長。

○議長（千葉 隆君） 企画係長。

○企画係長（右門真治君） それでは、第2期八雲町総合計画実施計画について説明させていただきます。お手元のA3判の資料をご覧ください。

資料の1ページから2ページには、平成30年度から令和9年度までに統計分および令和7年度から令和9年度までの年度ごとの事業費を総合計画の章別、分野別に集計した総括表を掲載しております。

それでは2ページをご覧ください。上段の表の総合計画案に記載されている合計額は、平成30年度から令和9年度までの10年間の合計で約630億5千万となっております。また、2ページ中段の左側には、計画額の年度別推移を示す折れ線グラフを掲載しております。計画額の推移の特徴としては、令和7年度約103億2,500万と増加しております。これは役場新庁舎整備事業建設工事費約48億円が事業費に加わることによるものです。なお、この事業費は、令和7年度から令和9年度の3ヶ年にわたり支出される予定でしたが、年度ごとの支出額については現在精査中ということでした。

そのため、令和7年度に総額の見込み額を仮として記載しており、担当課において6月の補正を予定しております。また、その際には年度ごとの事業費が明確になると伺っております。2ページ右側には総別の推移を示す折れ線を掲載しております。

第1章は都市基盤整備の分野であり、令和7年度が突出しておりますが、これは説明で申し上げた役場新庁舎整備事業によるものです。

第2章は産業振興の分野であり、令和7年度はアイヌブランド化事業、ウイスキー蒸溜所誘致事業を予定しております。

第3章は医療、福祉の分野で、令和7年度は熊石国保病院建替事業や医療機器等の整備事業を予定しております。

第4章は教育の分野で、令和7年度はGIGAスクールネットワーク整備事業に向け、小中学校のパソコン更新を予定しております。

第5章は、協働と行財政運営の分野となっており、公用スマートフォン導入事業を予定しております。

3ページから21ページにつきましては、各事業の詳細を掲載しており、事務事業の横にある星マークについてですが、新たに実施計画に搭載された事業を示しております。

また最後、22ページから23ページには令和7年における1千万円以上の事業を掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

以上、簡単ではございますが、第2期八雲町総合計画実施計画の説明とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは、第2期八雲町総合計画実施計画について、皆さんの方から質疑をお願いいたします。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それでは報告済みといたします。ありがとうございます。

それでは、(4)の教育長の退任と後任の任命についてということで記載されておりますけれども、現教育長につきましては3月31日までの退任ということになっておりまして、後任については今選考中ということで、しかるべきに時期に改めてご報告させていただくということで、皆さんの方にご理解を願いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

できる限り会期中の中で報告いただければなということで、報告願えるようご尽力願いたいと思っております。

以上ですので、皆さんの方からございませんか、この件について。なければ、(4)もそのようにしたいと思います。

その他、皆さんの方からございませんか。

○議会事務局長（野口義人君） 議長、事務局長。

○議長（千葉 隆君） 事務局長。

○議会事務局長（野口義人君） 明日、町議会議員の15年表彰を黒島副議長、赤井議員、安藤議員、横田議員の4名が受賞されておりますので、議長から表彰伝達式を行いますので明日9時50分までに本会議場の方へ入出をしていただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） 表彰される議員さんは遅刻ないように、お願いいたします。

それでは、そういうことで他にございませんか。

なければ10時に開会をいたしますので、全員協議会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

[閉会 午前 9時45分]